

2019 年度

事業報告書

公益財団法人 宇宙科学振興会

2019 年度事業報告書

2019 年度は当財団、宇宙科学振興会が 2012 年 4 月 1 日付で公益財団法人に移行して 8 年目の事業年度であった。当財団の事業目的は宇宙科学に関する事業への援助及び研究助成等を行い、宇宙科学の振興に寄与することである。この目的に沿って行った公益目的事業は、(1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業、(2) 国際学会出席旅費支援事業、(3) 国際学会開催支援事業の 3 事業である。2019 年度においてもこれらの 3 事業を予算の範囲内で推進した。他団体が中心となって企画・運営される宇宙科学の知識の普及・啓蒙活動に対する一般支援助成についても、法人会計の管理費内で実施した。

若手研究者を対象とした 2019 年度の第 12 回宇宙科学奨励賞は、奨励賞選考委員会の選考結果の報告を受け、宇宙理学分野及び宇宙工学分野の若手研究者各 1 名（計 2 名）に宇宙科学奨励賞を授与した。若手およびシニア研究者の海外渡航への支援及び日本国内での国際学会開催の支援については、上半期助成分と下半期助成分の 2 回に分けて公募と審査を行った。これらの公募は関係学会を通じて関係者に周知し、ほぼ例年規模の数の研究者が応募した。

当法人の管理・運営は極めて経費を節減した方法ながら、関係者の協力の下で順調に進められた。

I. 公益目的事業

(1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業

宇宙科学奨励賞は、宇宙理学・宇宙工学の分野で優れた研究業績をあげ将来宇宙科学推進の中心となることが期待される若い研究者を顕彰し、宇宙科学分野の進展に寄与することを目的として、当公益財団法人の前身の財団法人宇宙科学振興会において 2008 年度に創設された。この事業ではまず関係学会（2019 年度現在は 13 学会）の研究者に候補者の推薦を依頼し、宇宙科学各分野の当該年度 4 月 2 日時点で 37 歳以下の若手研究者（この年齢制限は大学院修了後約 10 年間を目途とするとの趣旨）のうちで最近著しい成果を挙げている若手研究者を推薦していただく。寄せられた推薦に基づいて、各分野の有識者で構成される選考委員会により候補者の審査・選考を進める。選考委員会は原則として宇宙工学関係から 1 名、宇宙理学関係から 1 名、合計 2 名の候補者を選出する。理事会は選考委員会の推薦に基づいて当該年度の授賞者を決定する。

2019 年度は第 12 回目となるが、授賞者には賞状、表彰楯の他に副賞 30 万円が授与される。今年度は関係の各分野の研究者から、理学系 8 名、工学系 2 名、合わせて 10 名の授賞候補者の推薦を受けた。2019 年 11 月 16 日に第 1 回、2019 年 12 月 14 日に第 2 回の選考委員会が開催され、その間及びその後のメール連絡を含めて審査選考が行われた。選考委員会において審査の結果、理学分野では新潟大学・研究推進機構・超域学術院・助教の下西隆氏（1984 年生）に対

して、その研究題目「あかり衛星を用いた低重元素量系外銀河における原始星と星間物質の研究」を対象として、工学分野では宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所・プロジェクト研究員・菊地翔太氏（1989年生）に対して、その研究題目「小天体近傍の強摂動環境における軌道・姿勢力学理論の構築」を対象として、第12回宇宙科学奨励賞を授与することとなった。

例年は3月初旬に多数のご来賓、関係者列席のもとに本賞の表彰式および祝賀会を開催しているが、今年度は新型コロナウイルス感染症問題への対応のため、表彰式および祝賀会を開催できる状況になるまで延期することとした。

（2）国際学会出席旅費支援事業

この事業は当財団が公益財団法人に移行する前の財団法人宇宙科学振興会により 1997 年度に創設された。当初より宇宙理学及び宇宙工学に関する独創的・先駆的な研究活動を行っている当該年度 4 月 2 日時点で 35 歳以下の優れた若手研究者に対して、海外で開催される国際学会に出席する費用の支援を行ってきた。2006 年度以降は、大学や研究機関などを退職後も、活発な研究活動を行っている 63 歳以上のシニア研究者に対しても、支援を行っている。

国際学会出席旅費支援の申請は当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。応募総数に対する採択率は最近では平均して 5 分の 1 程度である。審査の結果採択された助成対象者は、その発表論文テーマ、国際会議名、開催場所、日時等の情報とともに財団のホームページに公表される。渡航後には国際会議で発表の成果についての報告書を渡航 1 ヶ月内に提出頂き、提出された報告書は財団のホームページに掲載される。

2019 年度前期に当たる 2019 年 4 月～9 月の間に開催される国際学会への出席に対しては、2019 年 2 月 28 日に応募を締め切った。また 2019 年度後期に当たる 2019 年 10 月～2020 年 3 月に開催される国際学会への出席に対しては、2019 年 8 月 31 日に応募を締め切った。また 2020 年度前期に当たる 2020 年 4 月～9 月の間に開催される国際学会への出席に対しては 2020 年 2 月 29 日に応募を締め切った。

本年度の公募は、財団の公式ホームページの他に関係 13 学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択者には 1 件当たり 10 万円～30 万円の範囲で助成を行うこととしており、2019 年度の予算では 10 件程度の国際学会出席旅費支援を予定したが、2 月 28 日締切りの応募に対し 4 件、8 月 31 日締め切りの応募に対し 4 件、合計 8 件（応募者総数 49 件、採択率約 16%）が採択された。8 名の採択者には公示の枠内（1 件当たり 10～30 万円）で渡航先、開催期間・渡航時期に基づいて算定された助成金が支給された。2019 年度においては本事業の助成金予算額 180 万円であったのに対して実施助成金額合計は 204 万円であった。表 1 に 2019 年 2 月 28 日及び 8 月 31 日締切りで募集し、2019 年度に実施した国際学会出席旅費支援 8 件の一覧を示す。助成を受けた採択者の国際学会参加・発表の成果の報告は財団のホームページに掲載されている。

表1 2019年度 国際学会出席旅費支援 助成支援者一覧表

シニア

| 所属 | 氏名 | 国際研究集会の名称 | 主催団体 | 開催地 | 期間 |
|------------------------------------|-------|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|----------------------|
| 明星大学理工学部 常勤教授 | 井上 一 | X線天文学 2019 X-ray Astronomy 2019 | ボローニャ大学、 ヨーロッパ宇宙機 構 他 | ボローニャ イタリア | 2019.9.8-13 |
| 東京大学 カブリ数物連携 宇宙研究機構 連携研究員 | 牧島 一夫 | 第14回アジア太平洋地域 物理学会議 The 14th APPC (Asia-Pacific Physics Conference) | AAPPS (Association of Asia Pacific Physical Societies : アジ ア太平洋地域物理 学会連合) | クチン市 マレーシア | 2019.11.17- 11.22 |

若手

| | | | | | |
|-----------------------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------------------|----------------------|
| 名古屋大学 大学院 工学研究科 助教 | 宮田 喜久 子 | 第49回国際環境システム会議 The 49th International Conference on Environmental Systems (ICES 2019) | ICES STEERING COMMITTEE | マサチューセ ッツ州 アメリカ | 2019.7.7-11 |
| 東北大学 博士後期課程2年 | 永田 貴之 | ASME-JSME-KSME 合同流体力工学 会議 2019 ASME-JSME-KSME Joint Fluids Engineering Conference 2019 | アメリカ機械学会 | カリフォルニ ア州 アメリカ | 2019.7.28- 8.1 |
| 国立大学法人 九州工業大学 助教 | 小澤 晃平 | 合同推進会議 Joint Propulsion Conference | アメリカ航空宇宙 学会 | インディア州 アメリカ | 2019.8.19- 22 |
| 東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 博士課程3年 | 高尾 勇輝 | 第70回国際宇宙会議 70th International Astronautical Congress (IAC) | International Astronautical Federation (IAF) | ワシントン D.C. アメリカ | 2019.10.21- 10.25 |
| 東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 助教 | 赤嶺 政仁 | サイテック 2020 AIAA SciTech Forum and Exposition 2020 | アメリカ航空宇宙 学会 | フロリダ州 アメリカ | 2020.1.6- 1.10 |
| 京都大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻 太陽惑星系電磁気学講座 博士後期課程3年 | 生松 聡 | 国際宇宙科学連合： 放射線帯物理研究グループ会議 International Space Science Institute : Radiation belt physics group meeting | International Space Science Institute | ベルン スイス | 2020.1.27- 1.31 |

(3) 国際学会開催支援事業

宇宙科学分野（宇宙理学、宇宙工学）の国際学会・研究集会を日本国内で開催する組織・団体に対する支援は前身の財団法人宇宙科学振興会の創設（1990年）当初より行われてきた。ただし、当初は宇宙科学分野の国際学会・国際研究集会の主催は宇宙科学研究所の研究者が行うことが多かったので、全国公募ではなく宇宙科学研究所内部の研究者または衛星プロジェクトなどで宇宙科学研究所と共同研究を進めている各大学の研究者を対象とする内部応募の形式となっていた。その後この助成事業に対し全国的に関心・期待が高まってきたことを受け、2007年度よりこれを宇宙科学研究所の事業に限らず理論的研究等も含めて、全国の研究機関・大学において宇宙理工学に関する国際学会・研究集会を主催する場合には広く応募できるように、全国の研究機関・大学を対象とした公募型事業に発展させてきた。公益財団法人宇宙科学振興会に移行した後においてもこの事業を継続している。

国際学会・国際研究集会開催の支援の申請は、国際学会出席旅費支援の申請と同様、当財団の研究助成審査委員会において採否が審査される。応募総数に対する最近の採択率は平均して2分の1程度である。年度の上半期（4月～9月）開催分の応募の締め切りは前年度2月末日とし、下半期（10月～3月）開催分の応募申請の締め切りを8月31日として実施している。

本年度の公募は、財団の公式ホームページの他に関係13学会の学会誌または学会ホームページを通じて通知された。採択された国際学会・国際研究集会に対し、1件当たり30～50万円の範囲で助成を行うこととしており、2019年度の予算では3～5件程度の国際学会・国際研究集会開催支援を予定したが、2月28日締め切りの応募に対しては2件、8月31日締め切りの応募に対し2件、合計4件（応募件数10件、採択率40%）が採択された。ただし、採択後新型コロナウイルス対応のため学会開催が次年度に延期されたことにより辞退したケースが1件あった。2019年度に支援を実施した国際学会・国際研究集会3件及び辞退1件の一覧を表2に示す。この支援事業に対する2019年度の助成予算額130万円のところ、実施助成額は100万円であった。各国際学会・国際研究集会開催の状況や成果の概要は財団のホームページに掲載されている。

表2 2019年度 国際学会開催支援 助成支援一覧表

| 国際学会 名称 | 主催団体 | 代表者 | 代表者所属 | 開催地 | 期間 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------------------------------------|-------------------------------------------------------|--------------------|
| 高エネルギー天文学校正 国際コンソーシアム会議 International Astronomical Consortium for High Energy Calibration meeting 2019 | IACHEC2019 組織 委員会(宇宙科学研究 所、埼玉大学、宮 崎大学、関東学院大 学、理研) | 辻本 匡弘 | 宇宙航空研究 開発機構 宇 宙科学研究所 助教 | 湘南国際 村センタ ー | 2019.5.19- 23 |
| 第 39 回 地球科学・リモー トセンシング国際シンポジ ウム 2019 The 39th IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium(略称:IGARSS 2019) | 米国電気電子学会 地球科学およびリモー トセンシング部会 (IEEE GRSS) 日本学術会議 | 廣瀬 明 | 東京大学大学 院 工学系研 究科 教授 | 横浜国際 会議場 | 2019.7.28- 8.2 |
| 第 3 回 International Moon Village Workshop & Symposium | LOC(MV2019 Local Organizing Committee) 東京理 科大学 スペース・コ ロニー研究センター 慶應義塾大学 宇宙 法研究センター 京 都大学 宇宙総合学 研究ユニット | 稲谷 芳文 | 宇宙航空研究 開発機構 宇 宙科学研究所 特別参与 | 東京理科 大学(神 楽坂キャン パス) 京都大学 (吉田キャン パス) | 2019.12.5- 12.8 |

辞退（開催されなかった国際学会）1 件

辞退 1 件

| | | | | | |
|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------|---------------------|--------------------|
| VLF/ELF 電波による電離 圏・磁気圏リモートセンシ ング 2020 国際会議 | IAGA(地球電磁気学 および超高層大気物 理学の国際連盟) URSI(国際電波科学 連合) SGEPSS(地球電磁 気・地球惑星圏学 会) | 大村 善治 | 京都大学 生存圏研究 所教授 | 京都大学 宇治キャン パス | 2020.3.23- 3.27 |
|----------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------|----------------------|---------------------|--------------------|

なお、公益目的事業(1)～(3)の 2019 年度の事業別応募採択数を、参考資料として
本報告書に添付している。

II. 財団の管理運営等法人会計関係

現在当財団は神奈川県相模原市に所在する国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所内に一室を借用しこれを事務室として、非常勤事務局長 1 名、非常勤事務職員 2 名の計 3 名体制で財団の管理運営を行っている。

(1) 宇宙科学に関する一般支援助成

一般支援助成の目的は広く一般国民に対して宇宙科学に関する知識を普及するとともに、若手青少年の宇宙科学に関する興味・関心を深め、宇宙科学の将来の発展に寄与することである。本助成は一般国民、青少年を対象に同様の目的で活動する他団体と連携して行う。

2019年度に一般支援を行なった支援先は表3に示す通りである。本助成は他の組織・団体が企画・運営の中心になっている事業への支援であるため、公益財団法人への移行後は管理費（法人会計）から支出することとしている。2019年度の支援額は約81.0万円であった。

表 3 2019 年度 宇宙科学に関する一般支援助成

| 支援内容 | 支援先 |
|-----------------------------------------------------|--------------------|
| 多摩六都サイエンスレクチャー 2019年6月1日、6月29日 | 多摩六都科学館 |
| 第18回「君が作る宇宙ミッション」2019年7月29日～8月2日開催 | 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 |
| 第15回 能代宇宙イベント 2019年8月17日～23日開催 | 一般社団法人あきた宇宙コンソーシアム |
| 2019年度 JAXA 相模原キャンパス特別公開 スタンプラリー景品代 2019年11月9日開催 | 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 |
| 第35回 モデルロケット全国大会 2019年10月19日開催 | 日本モデルロケット協会 |
| 第27回 衛星設計コンテスト 2019年11月9日開催 | 一般財団法人日本宇宙フォーラム |

(2) 基本財産の現況と運用

2019年度末における基本財産総額は約4億4797万円であり、基本財産の運用に伴う果実（基本財産受取利息）は約554万円（約1.24%）となり、前年度実績より約75万円の減少となった。

(3) 賛助会員の加入状況

2019年度の会員数は、12法人（25口※）であった。（※ 賛助会費1口10万円）

(4) 理事会、評議員会の開催

2019年度には次の通り理事会、評議員会を開催した。

- ・2019年5月21日：宇宙科学研究所（新A棟2階小会議室）において第22回理事会を開催し、「2018年度事業報告及び財務諸表等計算書類承認の件」、他4議案について審議・承認を行った。
- ・2019年6月5日：東京ガーデンパレス 2階 天空において第11回評議員会を開催し、「2018年度事業報告及び財務諸表等計算書類承認の件」、他4議案について審議・承認を行った。
- ・2019年6月5日：東京ガーデンパレス 2階 天空において第23回理事会を開催し、「代表理事・業務執行理事選任の件」について審議・承認を行った。
- ・2019年8月23日：第12回評議員会（書面評議員会）を開催した。「評議員会長選定の件」、他2議案について審議・承認を行った。
- ・2019年10月8日：第13回評議員会（書面評議員会）を開催した。「役員・評議員費用支払規程の改定の件」について審議・承認を行った。
- ・2020年1月7日：第24回理事会（書面理事会）を開催した。「2019年度第12回宇宙科学奨励賞の授賞者決定の件」について審議・承認を行った。
- ・2020年3月6日：東海大学校友会館（霞の間）において第25回理事会を開催し、「2020年度事業計画及び収支予算書の件」、他2議案について審議・承認を行った。

III. 附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」は存在しない。

以上

(参考資料)

2019年度 事業別応募採択数 (公募年度で集計)

(2019年4月～2020年3月)

1) 宇宙科学奨励賞顕彰事業

| | 応募申請 (件) | 採択 (件) | 採択額 (円) |
|----------|-----------------|----------------|------------|
| 10/31 締切 | 10 (理 8・工 2) | 2 (理 1・工 1) | 600,000 |

2) 国際学会出席旅費支援事業

| | 応募申請 (件) | 採択 (件) | 採択額 (円) |
|----------|-------------|------------|------------|
| 8/31 締切 | 23 | 4 | 900,000 |
| 2/29 締切* | 15 | 5 (辞退 1 件) | 1,110,000 |
| 計 | 38 | 9 | 2,010,000 |

* : 2/29 締切の助成は、2020年度前期 (2020年4月～9月) に実施予定のため、2019年度事業報告書本文の集計には、件数、採択額ともに含まれない。

3) 国際学会開催支援事業

| | 応募申請 (件) | 採択 (件) | 採択額 (円) |
|----------|-------------|------------|------------|
| 8/31 締切 | 4 | 2 (辞退 1 件) | 600,000 |
| 2/29 締切* | 5 | 1 | 400,000 |
| 計 | 9 | 3 | 1,000,000 |

* : 2/29 締切の助成は、2020年度前期 (2020年4月～9月) に実施予定のため、2019年度事業報告書本文の集計には、件数、採択額ともに含まれない。